

国際法学会 2025 年度研究大会公募報告への応募を検討しておられる会員のみなさまへ

2025 年 12 月 15 日

研究企画委員会

2025 年度研究大会の全体会と企画分科会はそれぞれ以下のように構成される予定です。会合のタイトルと報告タイトルはいずれも仮題であって変更の余地はありますが、根幹部分が変わることはありません。

応募される際は、これら報告テーマとの重複を避けてくださいますよう、お願い申し上げます。重複の可能性につき懸念がある場合、事前に研究企画委員長までご照会ください。

研究企画委員長 森肇志 jsil-kenkyu-kanji2024@googlegroups.com

(*を@に置き換えてください。)

全大会：戦後体制の現在と展望	
国際安全保障「原則的禁止と例外的許容の政治学」	石田淳
国連体制「国連システムの危機と法の支配をめぐる仮題」	清水奈名子
武力紛争法「非国際的武力紛争を規律する武力紛争法の歴史と現在」	川岸伸
自由貿易体制「世界貿易体制の興亡と再グローバル化 (re-globalization) の可能性」	小林友彦
企画分科会 1：ウクライナ紛争・ガザ紛争と第三国	
「ロシアによるウクライナ侵略への対応（法的論点に関する一考察）」	長谷部潤
「国際刑事司法機関の拡散は問題か：特別刑事法廷構想と国際刑事手続の断片化・立憲化・多元化」	越智萌
「経済制裁と政治的・軍事的支援のジレンマ」	藤田将史
「武器供与に関する武力紛争非当事国の国際義務違反に対する第三国による責任追及：ジェノサイド条約適用事件（ニカラグア対ドイツ）を素材として」	広見正行
企画分科会 2：国際私法における国家管轄権	
国際私法における国家管轄権の再検討	Dicky Tsang
第 4 リステイトメントと規律管轄権	田中美穂
第 4 リステイトメントと執行管轄権	多田望
国際法の視点からのコメント	竹内真理
企画分科会 3：国際秩序における国際司法機関の意義	

「現代国際社会における国際裁判所の勧告的意見手続の意義と課題」	河野真理子
「国際司法裁判所の暫定措置制度の現状と課題」	石塚智佐
「第三国訴訟参加のダイナミクス」	高柴優貴子
「国際法をめぐる国際政治学実験」	多湖淳
企画分科会 4 : 人権の主流化の現在	
「拷問等禁止条約の今日的意義」	前田直子
「ハーグ条約と子どもの人権保障」	村上愛
「国際人道法における人権主流化の多面的諸相」	田村恵理子
「人権の主流化と国際経済法の構造変化」	平見健太
企画分科会 5 : 気候変動問題	
「気候変動問題に関する国際裁判所への勧告的意見要請と日本の対応」	中村和彦
「気候変動問題と人権保障・生物多様性の保全」	木村ひとみ
「化石燃料補助金の規律と国際経済法：近年の発展に焦点を当てて」	石川義道
「欧州グリーンディールの対外的側面：EU 世界戦略の視点から」	臼井陽一郎